

「今を肯定的に捉えて学びに向かう」

私は、コロナ禍の中でいろいろな心配や不安な気持ちと、何とか学校生活の日常のルーティンを確認し生徒に二度とない青春時代を充実させたいという気持ちとのジレンマが2学期のスタート時にはありました。生徒たちの行事なども延期や縮小を余儀なくされました。ただ、私は、できる限り日常の学校生活ルーティンを維持し、生徒同士の**つながり学習**で成長を促していきたいと考えています。(10/11「校長講話」参照)

このような状況は人の「弱さ」と「強さ」を浮かび上がらせます。先が見通せないために不安に駆られ、他者に悪影響を及ぼす行動をしてしまう「弱さ」・・・また、今自分にできることを考え、実行し、さらには社会に貢献しようとする「強さ」・・・私自身、自分に問う毎日でもあります。

修学旅行・研修旅行についてもこのようなジレンマの中で、担当学年の先生方にできることをしっかりやっていこうと話し、取り組んできました。保護者の皆様にもアンケートのご協力をいただき、様々なご意見をいただいています。

私は、“こんなときだからこそ”という考えから工夫改善が行えると、ポジティブにいろんなこと考えるようにしています。そんな中で、生徒の日常の姿を見ると、**今を肯定的に捉えて学びに向かっているように感じる瞬間が多々あります。**例えば・・・

(10/11「校長の朝の礼拝での話」より抜粋)・・・その一つが、9月行った女学院祭になります。当初は、実施は難しいのではないかという声も当然ありました。そんな中、生徒会長と学祭実行委員長の二人が校長室に訪ねてきました。「なんとか実施できないか」「有志の演目も入れられないか」という話でした。私は、代表の二人に「なぜしたいのかという理由、そして、もしそのことを反対する人がいたら、その反対する人たちが考えている理由をレポートし、その上で生徒会としての考えをつくってきなさい」と言い、そのレポートを宿題にしました。数日後、今度はもう一人生徒会の生徒と三人で再び校長室を訪れ、その宿題について私に説明をしました。私は、その考えを支持し、文化部発表会的な縮小した行事になりましたが、先生方と話し実施を決めました。私は、この思考のプロセスはとても大事だと考えています。今、ジレンマ的（自分の考えと反対の考えの考え方も正論）な状況の中で、大事になるのは、**違う立場の意見の理由も言えた上で、自分の考えをつくること**だと思います。実際、様々なことに配慮した学祭ができたと思います。特に印象的だったのは、様々な注意事項の動画を作成し、強制性はあるもののそれを感じることなくルールを守らせたことです。それを生徒が主体的に行動したことです。・・・

このような姿の要因には、保護者の方の影響が大きいと思っています。あらためて家庭教育の大切さを認識した次第です。

このようにこれまでの取組がこれまでと同様にできないという現実を経験中ですが、そういう新しい環境に対応した教育モデルはどこにも存在しません。生徒に伴走しながら、目標をつくり、カリキュラムを生み出す試行錯誤を続けることが大事だと思います。時には、前例のない、また、前例にとられない取組をすることもあると思います。その結果、私たちも生徒も「強さ」を身に付け、生徒の豊かな人生の1ページをつくっていくと思っています。

保護者の皆様、なにとぞ私たちの取組を支えていただけようご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

そして生徒のみなさん、今を肯定的に捉えて、チャレンジすることを大切にしていこう。